

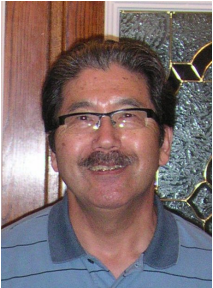


トロント新移住者協会

NEW JAPANESE CANADIAN ASSOCIATION c/o JCCC, 6 GARAMOND COURT, TORONTO, ONTARIO, CANADA M3C 1Z5

【ごあいさつ】 会長 長石 芳尚

「にゅうすれたあ」は確かに動き出しました。皆さんからの投稿を歓迎します。



暑い日が続いた夏も9月に入ってさすがにその矛先を緩めてきたようですが、会員の皆様には如何お過ごしですか？周りを見回すとこのほか猛暑続きの日本へ帰えられた方も多かったようです。長い梅雨、猛暑、頻発する豪雨災害、森林火災等々、科学者の中にも地球温暖化にその原因を見ない人も存在するようですが明らかに地球は人類の心を友ずれに悪化の一途をたどっているように見えます。そんな地球上の一角に存在するトロントと言う大都会に住む我々戦後移住者の1団体の機関紙が存続することに大きな意義を感じようとしている我々に大いなる幸いあれ！

と言うわけで今年、ようやく我が「にゅうすれたあ」の編集、発行に力を貸しましょうと言う人物が現れた。前号で書いたが、今は廃刊になっているトロントのユニークな季刊誌だった「オーロラ」を編集していた森貞氏だ。彼自身と我々、私も含めて協会執行部一同、久々に復活したこの「にゅうすれたあ」が編集者の意向を反映しつつ、単なる協会からの通信手段でなく広い読者との双方向性を持つ連絡、発表メディアとなってほしいというのが私の思いである。本号に森貞氏自身の編集の方向性にと付き書いていただく積りでいるのでご覧の上、みなさんからの投稿を待ち、楽しい「季刊誌」に育つ日の来ることを期待したい。

んからの投稿を待ち、楽しい「季刊誌」に育つ日の来ることを期待したい。



## 夏のBBQ



川村敦子

8月26日に、恒例トロント新移住者協会主催の夏のBBQが日系文化会館にて盛大に開催されました。見事な晴天に恵まれ、創立30周年を記念してのBBQという事で、ラッフルチケットの販売も加わり、400名近くもの参加者が集い、8月最後の日曜日を一緒に楽しく過ごしました。

私は食事サブ班のタスク・リーダーなる大役を仰せつかり、そんなの毎日家でやっていることの延長じゃん、と二つ返事で引き受けたら、サブ班は私を除くと他のタスクと掛け持ちの二人しか集まっていないという事を前日の会場設定の時に知らされました。ご飯やソーセージ、焼肉、コーンやサラダやキムチをお客様に配るのに最低8人は必要です。BBQは翌日に迫っており、「ここまできたら思い切り楽しもう！」という三浦さんの励ましに、兎に角やるしかないという覚悟を決めて当日に挑みました。



## チンドン屋評判記

ハリー川邊

「何だってね、チンドン屋、うまくいっただってね」「う～ん、会う人みんなが良かったよって言うてるのでこっちもうれしがってたところなのさ」「どうして君がチンドン屋をやることになったの」「これがさあ、移住者協会の理事会で、協会が今年30周年を迎えるのでラッフルを売り出すけど、どうやって宣伝するかって話になった時にね、ついでさ、チンドン屋でもやるうか、あっちゃん、ってトロント芸能愛好会の中山女史に口を滑らしてしまったのよ、君も知っての通り僕あ、江戸っ子のオッチョコチョイときてるからね、そしたらそれにすぐ飛びついてくるシト達がいたりしてねえ」「ふ～ん、それでやることになっちゃったんだ」「そう、だけどチンドン屋のことなんか何にも知らないから、さあ～、それからはPCに齧り付けてチンドン屋に関する色々なことをダウンロードして付け焼刃のお勉強さ」「それにしても短期間に良く出来たもんだね」「そりゃあ、急いで依頼した芸能愛好会のタレント性溢れる人たちが一生懸命協力してくれたお陰だよ、中山あっちゃん、トロント名物山本一座座長の山本昇ちゃん、安西まあちゃん、大石ももちゃん、そして小泉ときちゃんと揃えば何でもできちゃうのさ、僕あその点ラッキーな男だと思ってるよ」「そうかあ、でも曲がりなりにも責任を果たせてよかったね」「ホント、自分達も楽しめたし、割合好評だったのでやった甲斐があったというものだね」「世界中の移住者協会の中でもチンドン屋をやったってえのは初めてだったんじゃないの」「さあ、その辺のところは僕は全く知らないけど、でも引き受けて良かったなあって思い始めているんだ」「ま、めでたし、めでたしか」



お天気が良かったのでBBQの配膳はパティオにテーブルを出して外で行う事になりました。テーブルは二列にセットして、配る人は中に入って、並べる料理はこの順序で、と隣りでBBQを焼いているベテランの肉焼き班がテキパキと指示を出してくれたお陰で順調にテーブルの準備が済んで、始まる前から楽勝、楽勝と一人悦に入っていたら、ソーセージが焦げ過ぎというク

レームが台所準備班から入りました。見ると4台あるBBQ焼き機の一からぼうぼうと炎が高く上がっています。焦げ過ぎソーセージがどこから来るのかは明らかです。そこでソーセージを焼いているおじさんに駆け寄ってその旨を伝えると、十年以上もボランティアとしてBBQに参加して奉仕して下さっている方に、初めて役を頂いた私が意見を申し上げるのでからおじさん、へそを曲げてしまっただけで口をきいてくれませぬ。兎に角よくご任務を遂行せねばと「そんな炭みたいなソーセージはお客様にお出し出来ませぬ」と震える声で言い切ると台所に戻りました。そんな一抹を露知らぬ準備班は笑いながら焦げたソーセージの皮を丁寧に剥いています。



やれやれ、始まる前からお手つき一点です。ふとフェンスの隙間から外を覗くと入場を待つ参加者の長蛇の列が見えました。気を取り直してテーブルを再チェックします。12時半に開幕。長石会長の開会式の挨拶に始まり、引き続き持田主席領事よりご挨拶を賜り、初めて見るチンドン屋の行列に興奮し、いよいよ我がサブ班の出番です。



当日になって、BBQの広告を見てきました、という方々がお手伝いを申し出てくれて、台所で朝から準備をしていた人達も駆け付けてくれてなんとか人手を確保して走り出しました。再び長蛇の列。私は先輩に教えられた通り、サブには加わらず、全体を見回して食べ物が無くならないように気を配る役に徹しました。BBQメニューの取り合わせはバランス良く好評で、メインの焼肉の味と焼き具合はそれにもまして大好評。沢山の出店、子供達も楽しめるよう数々のゲームも準備して、目玉のラッフルチケットの抽選へと、4時の閉会式まで賑やかに時間が流れました。

疲れを感じる間も無いくらい忙しかった私の一番の収穫は沢山の人と出会い、沢山のひとと一緒に笑った事です。漬けダレで重さを調節したら？という私の姑息な意見に耳も貸さず黙々と定量の500グラムをきっちりばかりで量って販売用のBBQの肉を分けていた几帳面さと正義感に、日頃存じ得なかったその人の新たな一面を発見し、女性の鏡、お母さんの鏡と常日頃尊敬している私の大好きなその方が実はお料理が苦手な食事の準備はもっぱらご主人の担当、という可愛い一面を知る事となり、当日初めて会った参加者の皆さんと沢山交流を持ってまた友達の輪が広がりました。え？あのおじさんとはどうなったかですって？あれから程なくしておじさんとは仲直りし、それから最後の後片付けまでずっとお手伝いして頂きました。販売用のBBQ肉が売れなくて私が困っていると、そこは日系社会に顔が広いお方ですから、お知り合いの方に声をかけて下さり、無事完売にこぎつける事が出来ました。とても嬉しかったです。



タスク・リーダーとして反省する点は山ほどありましたが、それでも来年のBBQではもっとこうしよう、あれは改善しよう、と充実したすがすがしい気分で家路につくことが出来ました。



前日の食料品買い出しや会場設定からずっとお手伝い下さった皆さん、朝早くから準備に携わった台所班の皆さん、黙々と立派に任務を遂行下さった縁の下の方力持の音響担当の方々、忙しい中練習に練習を重ねてこの日見事なパフォーマンスを見せて下さったチンドン屋の皆さん、当日駆け付けて下さったベテランボランティアの皆様、大変お疲れ様でございました。有り難うございました。また来年お会いしましょう。

## 日系文化会館「完成への道」記念式典と第3期改造工事

去る、9月16日午前10時から「鶴の壁」に掲示された寄付寄贈者の新しく作りなおされた名盤の除幕式が行われ、11時から小林ホールで日系文化会館最後のボランティアとなる2階の改修工事開始を記念、祝賀する催しが「完成への道」と銘打って開催された。ここに載せた写真は、当日の式典の様子と今回の80万ドルと合わせて総額300万ドルの寄付を日系文化会館に行った小林家の代表者3人である。



JCCC 2階は既に工事開始に備えて完全に準備態勢が完了しており、工事期間中は2階の一部を除いて使用することは不可能となる。改装工事の1期が終了するのは来春4月となっている。今回の改修工事完成の暁には新たに2階へのアクセス階段とエレベーターがアートギャラリー付近に設置され、会館職員の事務室は2階天窓の下部に移転設置され、多目的の部屋と外部団体への賃貸空間が設けられることになっている。

(文責：長石)

## NJCAから1世デイにボランティア参加しました



去る9月30日、JCCC主催で恒例の1世デイが小林ホールを埋め尽くす参加者を迎えて開催された。400名を越える参加者があったものと思われる。行事の開始時間午後2時を待ちきれず12時半にはチラチラと入場者があり、NJCAの理事が3名、インターネット募集で集まった高校生など若いボランティアを交えて約15名が登録作業、会場準備を支援した。

今年の最高齢者は女性が101歳、男性は94歳であったが皆さんすこぶるお元気で、JCCCからのお弁当をつつきながらの舞台演技鑑賞のひと時を過ぎた。(報告：長石)





## 『ノビーのひとりごと』 恐怖映画になるところだった話



三浦信義



夏休みにノヴァスコシアへ旅行に行った。夏の観光最盛期だったにも関わらず、どこも比較的閑散としていて、観光するにも宿を探すにも結構楽だった。

帰りはノヴァスコシア南端から強烈に早いフェリーで3時間、アメリカ・メイン州のバーハーバーに午後着いた。ここはさすがに大観光地で、主要ホテル・モテルは事前に満員。念の為にそこから1時間離れた町にホテルを予約しておいた。

バーハーバーの街を見、港でロブスターディナーを食べ、霧の中を丘に登り、夕陽を見ながらそのホテルの町へ向かった。途中は保護林の山道で、たそがれの景色が美しかった。

夕陽の落ちた7時ごろその町に着いた。ところがその町の誰もそのホテルも住所にある道の名前も知らない。やっとそれがインターステート高速道路の出口が2つも先の村にあることが分かった。

行って見ると、これがインターネットの写真にあった建物とは段違い。しかも予約してあったにも関わらず禁煙の部屋を取っていない。巨大な長距離トラックの集積所の隣りで、どうみても運ちゃんの宿泊施設だ。近くの町の名前を使い、きれいな写真で客をおびき寄せ、禁煙の部屋も取らずに高い料金を取る。正義の味方の僕にとってこれは我慢ならない。

すでに夜8時だったが、すぐにキャンセル。キャンセル料金も(クレジットカードから)取らない、という証文を、もと長距離トラック運転手だったと思うカウナーのおっちゃんに書かせた。

さて、どうするか。すでに真っ暗。先ほどからまわりで雷がピカピカゴロゴロしている。高速道路を走ってはモテルも見つからない。普通の道を走り始めた。

まわりは森と畑の何も無い暗闇。ヘッドライトをハイビームにして走る道は上下し曲がりくねる。走る車も殆どいない。やがて土砂降りの雷雨になった。

雷雨の中、小1時間も走った頃、ある村にさしかかり、雨とワイパーと暗闇の向こうに簡単な「MOTEL」の看板が浮かび上がった。その下に赤い「VACANCY」のネオンサイン。部屋が10室の長屋モテルが稲妻の中に現れた。すでに閉店した、ポンプが2つしかない村のガススタンドの脇。モテル事務所も真っ暗。良く見ると「夜の事務所は裏の家」とサインがある。

雨の中、裏へ回って見ると、ちょっと高くなったところに2階建ての、うっすらと電気のついた家があった。ふーむ、これほどここで見たことがあるぞ、そうだヒッチコックの映画「サイコ」だ。

チャイムを押してしばらく待っていると、やせた老人がひよこひよこ出てきた。当然部屋はある。ルーム#1。安くて49ドル。この老人、こちらが質問しなければ何も言わない。笑うことを忘れた人のようだった。

相変わらずの激しい雷雨。車へ戻ってゆうかさんに言った。「今や恐怖映画の始まりの筋書きにふさわしい要素がすべてそろったよ・・・」。

恐怖映画の始まりは部屋の鍵を開けた時…と思うでしょう。開けてびっくり。これが清潔な部屋で、しかもリビングと寝室が別

になっている広いもの。台所が付いているし、コーヒーも冷蔵庫もすべてそろっている。エアコンもついていた。(ノヴァスコシアではエアコンのないB & Bが多かった。結局は涼しくて必要なかったが)。

もう夜の9時過ぎ。やっぱり疲れて、車に積んでいた赤ワインを2人で開けて飲んで寝てしまった。朝になってゆうかさんが朝日の中にモテルの名前を見つけた。「PRAY'S MOTEL (お祈りのモテル)」。何だか不思議な感じがした。

昨夜暗闇の中、道の斜め向かいの向こうに、駐車場がたっぷりあるカントリーインみたいな感じの良い建物を見た。その時、あっちが良かったかな、と思ったが、建物は真っ暗だったし、サインも「VACANCY」も出ていなかった。朝日の中にその建物と看板が見えた。それは村の葬儀社だった。「VACANCY」でなくて良かった…。

## 平和のワークショップ

トロント国語教室 所 真人

5月5日に田中勝さんという写真家が国語教室に平和のワークショップのために来てくれました。田中さんは被爆2世です。広島と長崎の原爆投下みたいな事がまた起らないようにこのワークショップをしています。まず、田中さんは自分のお父さんが被爆してどう変わったかを少し話してくれました。お父さんが4歳の時に広島に原爆が落ちて、足にやけどのあとが残りました。お父さんは恥ずかしくて、長いズボンしかはきませんでした。人がそのやけどのあとを見たらすぐに、「あ、あの人、被爆したな。」と思うから、温泉にも行きませんでした。次に、田中さんは自分の写真を見せてくれて、使い捨てカメラでとったと言いました。そして、どうやってベツツイさんというアメリカの画家に出会って、なぜ、いっしょに絵を作り始めたのかをせつめいしてくれました。ベツツイのお父さんは原爆を作った人の一人でした。この二人のアーティストは色々な国で「平和の新世紀」というタイトルで展示会を開いているそうです。



そのあとに面白い事を教えてくれました。「もし、一人の人が二人の人に平和の事を話して、次の日にその二人がそれぞれ二人の人に平和の事を話して...と続いたら、世界の人々に平和の話を伝えるのにたった33日しかかかりません。」と言いました。ぼくはその一人の人が大事だと思いました。田中さんが国語教室に来てくれた理由は、アドバンスクラスの中村先生が「ノーモア広島、ノーモア長崎」というドキュメンタリー映画を作っている時に、田中さんとお父さんとベツツイさんにインタビューしたからです。



田中さんの話の後、アドバンスクラスと8年生のみんなで作った折り紙のつるを折って、中に平和の願いを書きました。そして、つるを全部大きなピースマークにはりました。そして、ぼくたちの書いたピースメッセージを入れて、田中さんがきれいなアイロンプリントをみんなに作ってくれました。それをTシャツにアイロンして、みんなを着て、写真をとりました。このワークショップでは色々な事を学んで、いろんなきれいな写真と絵を見られて、とても楽しかったです。田中さん、ベツツイさん、ありがとうございました。

ゆりかごから子ども部屋時代（0-5歳 - 乳幼児期）の継承  
日本語育て

（連載2/3）

高度なバイリンガル話者を育てるために

鈴木美知子

5. 2歳時代

この時期は心身共に目まぐるしい成長を遂げるとき、4足歩行を完全に卒業し、自由に動き回れるようになり、曲がりなりにもことばを使って意思を伝えることができるようになる。物事の理解が日々、体験を通して深められる時期であり、まさに「三つ子の魂100まで」といわれる時であり、「子どもは親の背を見て育つ」ことを思い知らされる事が多くなる。

子どもの人格形成に最も強力な刺激を与えるのは、直接的、具体的なしつけではなく、親の示す手本と、親が当たり前として持っている価値観であり、子どもは、親の中にモデルを求め、家の中に「らしさ」を求めている。

1.) 2歳児の観察・理解・思考力は、我々の想像をはるかに超えている。会話力は、たどたどしいが、日に日にこみいったことが伝えられるようになる過渡期である。以下の例はインターネットの情報から拾ったものである。

【例1】2才の次女が「ぞうさんのうた」を歌っていた。もうこんな歌も歌えるようになったのねと、感激して聞いていたら、「と～うさん、と～うさん、お～ならがでてるのね、そう～よ、かあさんもで～てるのよ～」と歌っていた。

【例2】病院の待合室で順番待ちをしていた時、既に診察を終えて帰ろうとしているお父さんが子供に、「早く、靴はけよ」と言ったら、「2歳なんだから1人ではけるわけないじゃん!」と言っていた。

\*心得② ことばは、ことばに触れさせ、使わせなければ発達しない子どもは、回らない舌で覚えただけの言葉を動員して懸命に話す。その響きはかわいらしく、本人独特の表現は傑作だったり、奇抜だったりするので、つい、大人はそれを一緒に使って、楽しみたくなってしまいが、舌の筋肉が未発達のための現象なので、正確に言えるようになるまで根気よく正しい言葉で聞き返してやること。

子どもは、まわりの人達とのコミュニケーションのためにことばを覚え、ことばを増やしながら、自分の世界を広げているのである。親は心して、たくさん日本語で話しかけ、相手をしてやり、年齢相応の豊かな経験をたくさんさせてやるよう心がける。

\*心得⑥ そつ啄の機（適時）を逃さない

2歳時代は、ソックスや洋服、靴の着脱などの訓練開始のとき。鉤の使いこなし、クレヨンの正しい持ち方、お箸の使い方などを習得させる適期である。また早いとか、危ないからと、この「適時」を逃さないこと。

親のすることに興味を示した時は、きちんと説明し、思い切って体験させてみる。

注意：鉤や箸を使わせる時は危険なので必ず側に居て、先が尖っているのでもくわえないように、まわりの人につきつけないようにと教えること。

2.) 生活習慣形成とことばかけのチャンス

食事：箸、フォーク、スプーンなどが操作でき、行儀よく食事ができるよう訓練する

ア) 食事の基本的なマナーの訓練をする

イ) 好き嫌い無く、なんでも食べられるようしつける

遊び：一人遊び、兄弟や家族との遊びができる

遊びを通して、もの名前をはじめ、入れる、出す、掛ける、外す、押す、引く、たたく、のぼす、切る、貼る、書く…と、数え切れない程のことばが体験を通して習得されるチャンスである。面倒がらずに一緒に遊び、たくさんことばかけをすること。

ア) ぼたんのかけはずし、らくがき、紙きりや糊付けなど、成長に合わせ脳と手の共応能力を育てる遊びなどをたくさん体験させる

イ) クレヨン、鉤などの使用訓練開始の適時。クレヨンの持ち方は箸の訓練に準じ、正確な持ち方を覚えさせる

ウ) 童謡を自分で歌い始める時。たくさん聞かせ、一緒に歌ってあげる

運動：行動範囲が広がり、活発化する

2歳を過ぎると小さな乗り物の操作が出来るようになる。こいだり、ハンドルを操作したりと、運動能力だけでなく考え、判断する力も育つ。運動に関することばを行動とともにくり返し使ってみせる。

絵本の読み聞かせ：絵が主体のものから、物語のある絵本へと、子どもの成長を見ながら移行させる

6. 3歳時代

人間の脳の体系化の第一段階は三才を目に行われ、脳神経のつながりのおよそ80%はこの時期に造られるのだそうである。人の生き方の根本となることをていねいに体験させ学ばせる時期であり、人生学習の教室はどんどん広がっていく、社会性の発達開始期である。3歳ともなると、まだまだ自分中心ではあるが、まわりの人の言う事が理解でき、家族との関わりの中で、その一員として行動できるようになる。

ことば掛けは声掛けであり、植物を丈夫に育てるために肥を掛けるのと同じ事である。発育に合わせて必要な肥を必要な量だけかけてやらないと、植物は枯れたり、根腐れを起こしたりするように、子どもへの声掛けも子どもが心を開いて話せるよう、温かい心遣いをもって子どものことばに対応する配慮が必要である。

この1年は、幼稚園や日本語学校生活への準備期間として以下の点を親子して、日々、楽しみながら準備しつつ、大切に過ごしたい一年である。

1.) 日本語学校への準備項目

ア) 心の準備

- ・日本語学校について、どんなところか、どんなことをするのか、なぜいくのかなどについて、本人が納得するまでよく理解させる
- ・それぞれの日本学校の行事などに親子で参加し学校の雰囲気に触れさせる
- ・授業参観、体験入学などを経験させ、入学を心待ち出来るようにさせる

イ) 身の回りのことが自分で出来るようにする

- ・洋服や履き物の着脱
- ・手洗い/トイレ
- ・自分の持ち物の管理、整理整頓

ウ) 自立心/協調性

- ・親の手を離れて仲間と行動できる
- ・自分の名前が言える
- ・自他の物が区別できる
- ・順番が待てる
- ・集中してお話が聞ける
- ・分からないことを聞けたり、ほしいものを要求することができる
- ・仲間と同一行動ができる

エ) 生活行動

- ・食事：食前の手洗い、きちんとテーブルについて、遊ばずに行儀よく食事ができ、食前食後の挨拶ができる
- ・用便：自分で用を足せる

注意事項…

ア) 現地校のためには英語、日本語学校のためには日本語で「トイレにいったもいいですか。」と言えるように、家庭でも、ごっこ遊びのようにして練習させる

イ) 失敗をする前に、余裕を持ってトイレに行けるようタイミングを会得させる



・遊び：一人遊び、兄弟や家族との遊びが上手にできる

- ア) 積み木、単純なレゴ、ねんど、ひもなどで枠をはめずに自由に創作させたり、家族での絵やあいうえおカード拾い、カード合わせなどで言葉を楽しませながら、考える力や記憶力、協調性を育て、かつ、自然に文字の認識をさせる
- イ) 文字書きの準備としては、折り紙、切り紙、単純な塗り絵、絵描きなど、手先に神経を集中させる遊びを楽しませながら、手先に力をつけ、大腦と手の共応能を育てる
- ウ) 公園で遊ばせることは、家族を越えた交流を体験し、順番を待つことや、ゆずり、ゆずられることも学べ、かつ、思い切り心身全体を活動させられ、理想的である
- エ) 後片付けの習慣付け

・運動：活発に行動できる

走ったりスキップしたり、本格的に三輪車に挑戦したり、シーソーや滑り台、ぶらんこなどで遊べるようになり、自由に動き回れることが嬉しい時代である。こうした遊びは、身体の平衡感覚を育てるので、服を汚さないようになどと小言を言うのではなく、親も一緒に楽しみ、たくさん声かけをすること。

お) 文字の認識

個人差も大きいし、この時期に絶対に習得させねばならないことではないが、本人が興味を示したならば覚えさせる適時である。(押しつけ、無理強いは厳禁) くり返し読んでもらった本を独りで読んだり、文字の拾い読みが始まったら、文字カード遊びなどで十分に文字に親しませる。

2.) 特にこの時期に気を付けたいこと

- ① 心配のしすぎで子どもの芽をつまないこと
- ② 子どもの行動に必要な以上にブレーキを掛けないこと
- ③ 「ありがとう」ということばを習得させるために、いつも手本を示すこと
- ④ 過保護にしないこと

## 日本語教育プロジェクト2007年度講演会のご案内

猛暑が続いた夏もほぼ終息し急に秋の気配を感じるころです。秋といえど食欲と読書が頭に浮かびますがトロント移住者協会の日本語教育プロジェクトは今年も少ない予算を最大限に活用して下記のごとく日本語教育勉強会の大筋を決定しました。



カナダ社会の中で私達が日本語、日本文化を継承し続けることが出来るようにと毎年開催してきた、お子様をお持ちかこれからお子様が出来るご両親を主に対象とした継承日本語教育への取り組みを主題とする講演会/ワークショップに始まり、日本語文法講座、話し言葉に関するワークショップ、そして、現在、日本語学校で教えておられる先生方の体験に基づいた教え方を参加者の皆さんと共に勉強するワークショップ等が計画されております。

何れも、日曜日の午後から4時間程度を目標にプログラムが組まれる予定です。どうぞ、奮ってご参加下さい。

尚、詳細は追って、日系新聞等でお知らせいたしますのでよろしく願い致します。

### 2007年度NJCA日本語教育講演会

- 1) 2007年10月28日 鈴木美知子先生
- 2) 2007年12月02日 金谷武洋先生
- 3) 2008年01月20日 日加学園代表の先生2, 3名
- 4) 2008年02月03日 小室リー先生

## PLAR CHALLENGE 説明会とご報告 (3)

2007年6月7日

調査プロジェクトとして、その後のプラーチャレンジの経過報告が、2006年10月22日、NJCA日本語プロジェクト主催、CAJLE後援により、トロント日系文化会館にて行われた。

バーバー陽子氏、トロント日本語クレジットコース教師により、クレジットの仕組みについての説明がなされ、それを受けて、第一号グレード10学生の受験者担当、K教師による申請から受験までの経過報告があった。ほぼ100%に近い得点で合格、オンタリオ・クレジットを取得され、意欲を持って次のレベルへの受験準備を進めているとの報告があり、その後質疑応答が行われた

尚、プラーチャレンジについては、2005年11月6日に、オンタリオ州立高校のSchool Guidance Counselorとして現在活躍され、プラーチャレンジの審査担当の高田達氏を講師に招いて説明会を開いてから、すでに1年半が経過した。現在では、その申請の過程を各私立日本語学校の教師及び学習者が理解し、個々にデースクールのガイダンスオフィスに直接申し込みを進めている。毎年1月末週から2月初旬にかけて説明会が催され、今年もトロントボードによる説明会が、Earl Haig SSにて行われた。日本語学習者が直接申し込み、審査を受けてクレジット取得の結果がもたらされたことはよるこばしい次第である。CAJLEの調査プロジェクトとしてのプラーチャレンジへのお手伝いはここまでとし、終わることを、2007年2月4日の日本語教師研修会で、簡単に報告した。

PLAR (Prior Learning Assessment and Recognition) Challenge 関する詳細は、CAJLE ニュースレター32号、及び33号年史参照。

(調査プロジェクト担当 清水)

## 新しい入国審査 (個人識別情報の提供義務化) の概要について

法務省入国管理局



### 1 はじめに

平成18年5月24日に出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律が公布され、本年11月23日までに施行される予定です。

この法律では、テロの未然防止のための規定の整備が行われ、その一環として、入国審査時に個人識別情報を利用したテロ対策が実施されることになりました。

この新しい入国審査手続では、入国申請時に指紋及び顔写真の提供を受け、その後、入国審査官の審査を受けることとなります。

個人識別情報の提供が義務付けられている外国人が、指紋又は顔写真の提供を拒否した場合は、日本への入国は許可されず、日本からの退去を命じられます。

### 2 対象者

下記の免除者を除き、日本に入国する外国人のほぼ全てが対象となります。

- (1) 特別永住者
- (2) 16歳未満の者
- (3) 「外交」又は「公用」の在留資格に該当する活動を行おうとする者
- (4) 国の行政機関の長が招へいする者
- (5) (3) 又は (4) に準ずる者として法務省令で定める者

### 3 新しい入国審査手続

申請者の方には下記のとおりの手続きを行なっていただきます。

- (1) 入国審査官に旅券、EDカード等を提出していただきます。
- (2) 入国審査官から案内を受けた後、原則、両手の人差し指を指紋読取機器の上に置き、電磁的に指紋情報を読み取らせていただきます。
- (3) 指紋読取機器の上部にあるカメラで顔写真の撮影を行なっていただきます。
- (4) 入国審査官からインタビューを受けます。
- (5) 入国審査官から旅券等を受け取り、審査は終了します

手続きの詳細については下記のサイトを参照して下さい：

<http://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/nihongo/shinsa.pdf>



## 僕の少年時代

長石 芳尚

今や世はインターネットいわゆるITの時代で、今後どれほどわれわれがITのご厄介になるのか、あるいは、ご厄介にならずに生活する自由を享受できる日が続くのか全く予測できない。

そんなある日、GOOGLE EARTHのサイトでふと私の少年時代を過ごした小さな町がどうなっているのか訪れてみた。下は現在の発展振りを示す航空写真である。



父が1昨年他界し、母親もモミジ・ヘルスケア・ソサイアティに入居してそれなりに元気に過しているといえ言えるがなんとっても毎日が寂しいらしく、生前は何かと不満を口にしていた夫もいなくなれば、食事をしているも1人でだんまり、モグモグだから頼りなくて仕方がないのは当然だろう。かくいう僕も父の生前中はしっかりと話をしたこともなく今になって断片的に聞いていた話をつなぐものが大きく欠如していることに気付いてつくづく後悔していたところであったが、ふと父親とある意味で交わす言葉は同じく少なかったものの何かしら、どこかに深い接点を持っていたように今になって感ずる僕の少年時代の町のことを思い出したのであった。現代の子供たちはコンピュータゲーム等に夢中になるようであるが単純な遊びに明け暮れた当時を思い起こし、進歩が捨て去った時代の一端と若かりし我が両親を記録に留めて進歩がもたらせた地球規模の問題を抱える現在をしばらく忘れて読者各位が少年、少女時代を振り返る何らかのよすがになればと思う。



この地図はこれから思い付くままに書いてみようと思い立った僕の少年時代の活動舞台の大阪府泉南郡多奈川、深日町周辺の地形と現在の町並みに当時の様子を書き込んだ地図である。

僕が何歳からここに住み始めたかは全く記憶にないが小学校5年生の時に神戸へ引っ越したことは覚えている。従ってこれから書き記す各事象の時間的な順位は特に指摘のない限り重要ではないもののご理解戴きたいと思う。

さて、今回取り上げるのは、自宅から7、8分の所にある雑貨店の前、小さな川に架かる橋の袂で毎日、夕方に来ていた紙芝居のおじさんである。彼は子供たちに紙芝居を見る権利を与える条件として持ってきた各種の駄菓子から何かを買うことをそれとなく要求していたが僕を含めて殆どの子供は紙芝居が始まるまで少し離れた所にうろうろして只見するのが常だった。彼の駄菓子の2、3を紹介すると、真っ赤な飴がこっぴり付いたスルメの足、紙に包んだ細く白い飴、この飴は中心に少ししっかりしたヨウジより細い飴が入っていて、上手に途中で切れないように引き抜くともう1つ同じ飴が貰える、2本の箸にくるりとつけられた水飴、これはくねくねと箸を操って練りあげると真っ白になってくる。もしおじさんが十分に真っ白になったと認めるともう一本飴がもらえる。その他、ニッケの棒、ガラス管に入ったハッカの怪しげな飲み物、等々。しかし僕ばかりでなく皆の楽しみは「少年王者はゆく」の紙芝居だった。アフリカを舞台に象やライオンを友達に持つ少年の冒険を描いた長編物語で、必ず、続きを見ずには居れないところで毎日の話が終わるので何があっても毎日欠かさすわけには行かなかった。少年の父親が冒険家で少年が大危機に遭遇するとジープに乗って助けに現れることがあるのだが双方とも親子の関係があることに気付かずに居るところが味噌で、僕たちは何とはなく2人が親子であることを既知しているので、ハラハラ、ヤキモキするのであった。しかし、僕は話の途中で神戸に引っ越してしまったので少年王者がどうなったのか知らない。

それでは今回は此処まで…。

## ファミリートークスフォーラム(FTF)の初夏のピクニック

FTFは恒例の初夏のピクニックを6月10日(日)にハイパークで行ないました。朝から素晴らしい上天気、楽しく賑やかな大ピクニックになりました。各地から、はるばる西のロンドンから参加した会員もいました。



会員有志による歌・伴奏で「おゆうぎタイム」。エネルギー一杯の子供達は大喜びでした。その後皆一ヶ所に集まって記念写真。そして楽しいお昼。皆さん、それぞれ木陰に集まってお弁当と親睦を楽しみました。有志が持って来たポットラック料理もどんどんなくなりました。

お腹が一杯になったところでサイコロゲーム、賞品をもらった後は、参加者全員にかわいいシール(池端ナーサリー提供)の参加賞。子供が群がって大騒ぎでした。

ハイパーク・ピクニック・エリア#7は美しい緑に囲まれ、回りからは見えず、子供には安全なちょっとした秘境です。(それでどこだか分からず迷う会員が多い)。

FTFは生まれて6年、会員570家族の活発な相互援助グループに育ちました。

問い合わせは三浦 nobbym@idirect.ca





## 紅白一世の思い

2007年トロント紅白歌合戦制作担当 田中 勉

「え?! トロント紅白歌合戦だって? そんな演芸会があるの」 田舎だなあと言わんばかりに笑ったのはトロントの日系企業各社を束ねる日本商工会所属のある企業の歌好き社員だった。20年以上も昔の話だが今なら「ダサイ」などという言葉で切り捨てられそうだ。しかし同商工会の幹部役員の口利きとあっていわば仕方なく歌手として日系文化会館の舞台に立った後の同氏のコメントはかなり違っていた。「なかなかどうしてバカにしたもんじゃないよ」

もとよりプロの向こうを張って大層な口を利くほどの厚顔無恥でもないが、VTRやDVDで送られてくる世界各地の日系人の同種アマチュアイベントと比較してその出来栄えについてヒケはとらない、といった程度の自画自賛はさせてもらってきた。その「トロント紅白」が今その継続と方向性をめぐって岐路に立っている。

1977年、当時新移住者の野球好きが集まって日曜日ごとのプレイを楽しんでいた日系人野球連盟の選手の発案で始まった運営資金稼ぎのこのイベントは、30年を経た今ではトロント日系人社会の年末を彩る恒例大衆文化行事として定着するに至っているが、その間このイベントを担ってきた歌手及びボランティアスタッフの顔ぶれにあまり入れ替わりはない。第1回のショウ当時30歳前後だった出演者や裏方の若者たちもその多くがもう還暦を過ぎていく。事実、今年2007年の実行委員会は16名の委員で構成されているが、そのうち1名を除いて1980年代からこのイベントを支えてきた人たちがばかりで占められている。いわば「紅白一世」と呼ぶべき献身をいとわないボランティアだが、将来に目を向けると、このイベントの継承発展をゆだねる後継の「紅白二世」が欠落したままの運営・制作母体に世代交代の兆しの無いのが心もとない。しかし現行の実行委員会メンバーの尽力無くしてはショウの継続はたちまち危地に追い込まれるであろう。私自身、多年制作に携わりながら後継者の育成に見るべき成果のなかったことに忸怩(じくじ)たる思いがある。

旧会館でトロント紅白に拍手を送りその歴史を支えてきた観客層の中核をなしていた二世の観客数は近年目だって先細りの状況にある。客筋が変われば舞台の中身も味付けも変わらざるを得ない。その昔の演歌・歌謡曲全盛時代から現今の若いアイドルたちによってもたらされる人気のポップスへと傾く時代の趨勢は我々のショウでも無視できない。「演歌は苦手ですて・・・」とある審査員候補者にお断りを食らったのは去年のことだが、内容的にも演歌派とポップス派のジャンルのせめぎ合いはこれからも続くだろう。

日系文化会館は多民族都市トロントにあって誇るべき立派な施設だが、近年そのメンバーシップの落ち込みが続いている。私財をつぎ込むことすらいとわず会館の創設・維持に力を尽くしてきた二世の高齢化につれて物故者が増えていることがその一因だが、一方で新しく移住してくる日本人家族へのメンバーシップキャンペーンが思わしくないことがある。制作に5ヵ月もの長期を要する「紅白」の準備期間中必要になるリハーサルやミーティングへの

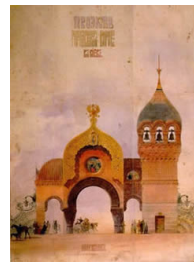
参加のほか、年間数多い催しなどで幾度となく会館に出入りしていてもメンバーシップ取得の意思のない紅白スタッフもかなりいる。人によって考え方や物事の価値観の違いもあり強制はできないが、せめて紅白出場者だけでも、というのが実行委員会の願いであり、今回から歌手の出場資格を会館メンバーに限るというルールを設けたのもこうした理由が背後にある。

12月8日、日系文化会館小林ホールは今年もまた400人を優に超す観客の盛大な拍手に包まれるだろう。紅白スタッフはこれからの数十年を見通す広い視野に立って内外からの建設的なインプットを待っている。

## 展覧会の絵

長石 芳尚

先日、今年初めてのトロント・シンフォニーいわゆるTSOへ出かけ、これまでになくゆったりと楽しみ、感激のひと時を過ごした。その日のお目当ては、ラフマニョフの「ピアノコンチェルト2番」とムソルグスキーの「展覧会の絵」だった。まず、久しぶりのジョン・木村パーカーの弾くピアノコンチェルトは席の位置がピアノ曲を聴くのに良かったのか一段と大きくがっしりとした彼のピアノからは時に力強く、ピアノツシモは転がるように耳と心を堪能させる音が次々と場内と私を満たしてくれた。最後の音の余韻が消えるのも待てず「ブラボー」と共に周りが総立ちだった。



休憩を挟んでの「展覧会の絵」をいつも私は感動無しに聴くことはない。オリジナルのピアノ曲もピアノと言う楽器が先天的に持つ表現力の偉大さを感じることが出来る私は大好きだが、モーリス・ラベルによる大編成オーケストラ曲もすばらしい。特にこの日のトロント・シンフォニーは最高の演奏を聴かせてくれた。

この曲は、11年間に亘る親交を持ったアーキテクトで、かつアーティストの遺作展を見たムソルグスキーが大きな才能を持った友人の死を悼む気持ちから生まれたとされるが、私が感動するのは、この曲、「展覧会の絵」の隅々まで余すところなく現れているムソルグスキーの今はなき友人への愛、失った友人の才能を惜しむ悲しみの大きさである。

友人の名はヴィクター・ハートマン、彼の作品を私は知らないが、この曲を作ったムソルグスキーがかくも惜しんだ才能は必ずや偉大なものがあったことを私は疑わない。

私の人生の終わるとき、この世に少なくとも1人は私の死を惜しむ人が家族以外に存在するような一生を過せたらとこの曲は私に力を与えてくれるのである。

## 何故か損した気分

森貞一弘

さすが、カナダ、サンクスギビングが過ぎると急に寒くなってきた。(実際、当日は真夏のように暑かった)

5月から調子が悪かった暖房機、そろそろ、長い冬に備えて、修理屋さんを呼んだ。

「これは、ポンコツですよ、修理するなんて、ドブにお金を投げるようなもの・・・」なんて、フタを開けたとたんに、修理工の人が言う・・・で、新しいのを安くしてやるから・・・と典型的なセールス風な会話になった。(難しいこと言って説得しようとするんだけど、ダメですよ・・・僕だって、一応、エンジニアなんだから、騙されませんよ)ところが・・・ほれ、95%の効率とか言って、天然ガス料金が、思い切り安くなって得ですよ・・・地球に優しいですよ・・・なんて、言葉に、妻は、説得されました。う～ん、でもね、壊れたものを修理して使うっていうのも、すごく人道的だと思うんだけどね。

故郷は遠きにありて... 9月帰国での思い

中山あつ子

帰国の度に、機上から太平洋に浮かぶ青島が見えてくるとホッとします。生まれ育った故郷に帰って来た安心感である。東京での数日間の「日本に帰って来た」という喜びとはまた違った感覚のように思える。



9月の宮崎は明るかった。空が青く太陽が眩しく人の姿にも宮崎を感じた。まだ、残暑が残る宮崎だったが、そんなに苦にはならなかった。乾燥気味のトロントにするとその湿度も感触が良い。

大淀河畔沿いのホテルから眺める夜景もまったく変わっていない。朝の大淀河畔も、穏やかな景色の中に爽やかな空気につつまれて心を落ち着かせた。

部屋は、昭和39年11月、川端康成がNHK連続テレビ小説「たまゆら」を執筆された時に滞在された部屋、とあった。私は、思わず部屋を見渡し、しみじみと感動に浸った。「たまゆら」とは、「玉響」と書くところがあるが、曲玉が揺れあって鳴る音がかすかなところから「かすかに、ちらりと、ほんのしぼし(少し)の間」という意味だとある。「たまゆら」、何と響きの良い言葉だろう、と思う。

二階にある地元宮崎で採れた旬の食材を生かしたレストランは、若いウエイターの笑顔のおもてなしと一緒に、懐かしい味も混じってゆっくり堪能できた。温泉にも浸かり母と姉とを伴った、たった一泊の時間は、故郷に帰った喜びを深く噛み締める事ができた。

“故郷は遠きにありて思ふもの…そして悲しくうたふもの”

トロントに移り住んで30年が過ぎた。30年と言うその長旅の中で、いつでも迎えてくれる「故郷」があるから、この地で頑張ることができるのだ、と振り返りながら思う。

まいったね.. おねがい..

編集担当 森貞一弘

覚えてますか?小学校の作文の宿題...原稿用紙って400文字なんだけど、それ1枚、書くだけでも、大変だったでしょ?。パソコンっていうのは、便利なもので、写真とか、イラスト(挿絵)とかで、かなり誤魔化せるけれど、この普通の紙(レターサイズ)に4000文字(つまり、原稿用紙10枚分)入るんやよね..



おねがい..

本当はね、ロマンチックに、そして時にはメルヘンチックに迫りたいんやけど..(宮沢賢治さんみたいに..) ちょっと(いんや、かなり)無理があるんやよね..実際、何、書いても、コメディになってしまうやろし。

でも、なんとなく人間くさいような、手作りのにおいのする、そんな季刊誌(って言っても、原稿さえ揃えば、年6回ぐらいは出せるはず?)にしたいですね。8ページじゃ、ちょっと、物足りなくなったら、次は12ページにすればいいんだし。(実際、今号は、ギョウギョウに詰まってるし..)

なんでも(文章に限らず、絵日記でも、イラストでも)、いいから、気楽に、投稿してください。好きなこと、書いてくれれば、それで、いいんですよ。400文字ぐらいだったら、なんとか、無理してでも、掲載します。(よほど、呪文みたいじゃないかぎり)

う~ん、日本語って、難しいんやけど..固いことは抜きにしましょう。でないと、僕自身、何も書けなくなるので..(あ、新移住者協会には、日本語の先生も、おられるんですけど..まあ、ここは、僕がクビになるまで、責任者ということで、許してもらいますよ)とにかく、はじめましょう。きっと、そのうち、調子が出て、楽しくなるはずだから..

原稿は、M\$ワードとか、一太郎(これって、ひょっとして、もう、僕ぐらいしか、使ってないですよ..) でタイプして添付ファイルとして送ってもらえると、ありがたいのですが..(あ、別にそんな高いもん、買わなくても、いいですよ..メール本体にタイプしてくれたら、それで充分、こちらは、楽勝ですから..) やっぱ、手書きって人も、歓迎いたします。(1ページ目の上の住所まで、送ってください。)

よろしく、お願いします。

doit4joy@hotmail.com

新鮮さ味一番!!



オーシャンフードの練り製品をどうぞ!

- ◎かまぼこ ◎てんぷら ◎さつま揚げ ◎シューマイ
- ◎竹輪 ◎はんぺん ◎その他練り製品

日本食品店でお求めください

**OceanFood** CO. LTD. Since 1980  
SEAFOOD MANUFACTURER  
3 TURBINA AVE, TORONTO, ONT. M1V 5G3  
www.oceanfood.ca TEL.(416) 285-6487 FAX.(416) 285-4012

**IKEBATA**  
NURSERY SCHOOL  
TORONTO CANADA

池端ナーサリースクール  
オンタリオ州認可保育園

Tel. (416)510-1441

www.ikebatanursery.com

日本語&英語プログラム

- \* 18ヶ月6歳前後(年齢別クラス)
- \* プログラム時間: 8:30am ~ 4:00pm (時間外保育: 7:45am ~ 6:00pm)
- \* 日本とカナダの経験豊富な幼児教育士による指導
- \* 少人数グループでの日本語・英語レッスン時間
- \* 毎月の行事、お料理保育、遠足、発表会など豊富なプログラム内容
- \* 給食、おやつ込み・兄弟・姉妹割引あり!

ボランティアスタッフ募集

ご興味のある方は info@ikebatanursery.com までご連絡下さい

